

詳説 英語の歌

雲地草夫

はじめに

アメリカやイギリスの歌を愛好する日本人は大勢いる。だが、その中のどのくらいが歌詞まで読み込んで理解しているであろうか。ほとんどの人はサウンドだけしか楽しめていないのではないだろうか。たいへんもったいないことである。スーパーヒット曲の歌詞がすぐれているのはもちろんだが、スーパーヒット曲でなくてもその年ヒットチャートを賑わせた歌には、必ず歌詞の中にも注目すべきところがある。すぐれた歌詞は、何物にも変え難い陶酔感や高揚感をもたらしてくれる。

アメリカやイギリスでは、「いい人」をどう表現するであろうか。通常は、nice person とか kind man などのように表現するのが普通だ。あまり使われないのが、good man だ。ビジネスの場や海外滞在の場で、あまり知らない表現が相手の口から出たときには少し身構えた方がいい。good man だと。「親切な人」というよりは、「いい暮らし振りの男」の方の「いい男」のニュアンスも入ってくる。そして英米の人間は、母国で暮らしているうちにたくさんの歌の歌詞が意識や無意識の中にじんわりと浸透している。英語圏では延べ2ヶ月くらししか暮らしていない筆者でも、人を形容するためにgoodという単語が使われるとふとある曲を思い起こす。CAN'T TAKE MY EYES OFF YOU（君の瞳に恋している）という、何十人ものアーティストがカバーしている名曲だ。この歌には次のような歌詞がある。You're just too good to be true.これを直訳すると、「あなたは素敵過ぎて有り得ない」となる。だから誰かが誰かのことをgood manと言ったときには、どきりとするのが正解なのだ。ただ漠然と、あのひとはイイ人だと言っているのではないのかもしれない。もしかしたら「あいつは生き過ぎている。羨ましい。」といったどす黒い感情が渦巻いている可能性もあるのだ。ビジネスの場といっても、そこに生きる人間にとっては一種の生きるか死ぬかの戦場である。だからそのような場で、誰もが知っている言葉を自分だけが知らないというのは大変危険なことである。本書では多くの人が明日から使えるフレーズをいろいろな歌の中からたくさん紹介していきたいと思う。

本書では歌の歌詞をどこかのサイトからそっくり転載するといったことはしない。何らかの著作権に抵触する恐れがあるからだ。訳詞の紹介も最小限にとどめ、できるだけよそから文句を言われないように配慮していく。だから英語の原文を参照したいときには、歌の題名から検索していただければ幸いである。

とにかく歌の歌詞は既に無尽蔵にあるとあっていい。材料が無尽蔵にあるのだから、筆者は一生解説を書き続けることができるというわけだ。筆者は、英米の歌を2種類に分類している。歌詞がkei-ko病にかかっている歌と、歌詞がkei-ko病にかかっていない歌の2つだ。kei-ko病とは、因果律を無視する病気のことだ。通常、人間の認知というものは、原因→結果という原型が基礎になっている。この認知の原型を因果律という。kei-ko病というのは、この因果律による認知の制約を無視し、結果→原因という認知方式を容認するというものだ。歌の中でkei-ko病に罹患してい

る箇所があったらその都度指摘していくようにしたい。また、あたりまえのことではあるが、自分がkei-ko病に罹患していないことを敢えて誇っているような歌があったら積極的に取り上げていきたい。

Yesterday

最初は、やはりこれが来なくてははいけないでしょう。The Beatles のYesterday。ポールマッカートニー氏は、自身の作った曲の中で一番好きな曲だとおっしゃられています。

.....

昨日。あれは全部遠い昔のことだったように思える。
だが、昨日は今ここに留まっているようにも思える。
ああ。僕は昨日を信じている。

突然、僕はいつもの自分の半分にも満たなくなった。
上から影が垂れ込めてきた。
ああ。昨日は突然やってきた。

なぜ彼女は行かなければならなかったのだろう。
わからない。彼女は何も語らない。
僕は何かまずいことを言った。
僕は今、昨日を待ち焦がれる。

昨日。恋とは、簡単にできるゲームだ。
今僕は、隠れる場所が欲しい。
ああ。僕は昨日を信じている。

.....

では僭越ながら少し解説させていただく。まずこの曲は、典型的なkei-ko病の曲である。昨日はもう過ぎ去ったことなのに、ポールマッカートニーは「昨日という日」がこれから来るかのように、待ち焦がれている。完全に日時の感覚がおかしくなっている。さらに「僕は昨日を信じている」とくる。昨日という日は、もう過ぎ去った日のことなので、もう事実として記憶の中にも記録の中にも定着されているものなのだ。もう信じるとかそういうレベルのものではないのだ。厳然とした事実となっているのだ。

そして、「突然、僕はいつもの自分の半分にも満たなくなった」というところは、ポールマッカートニーが品行方正を旨とするアイドル系ロッカーとしてのキャリアを歩み始めたことによって、本来なら抱けたはずの女を半分も抱けなくなって嘆いていると解釈することもできる。

Another one bites the dust

次に個人的にあまり意味の良くわからなかった歌を紹介しよう。Queen のAnother one bites the dust。想像力を働かして和訳してみた。

.....
スティーブは用心しながら通りを歩いている。
帽子を目深にかぶり顔を隠して。
その足音以外に物音はしない。
マシンガンはぶっ放されるのを待っている。

おまえ。覚悟はいいか。
おまえ。この覚悟はいいか。
おまえは椅子の縁にうなだれているのか。
戸口の外で弾丸が炸裂する。
ビートに合わせて。

別のヤツが割りを食う。
別のヤツが割を食う。
別のヤツが逝く。別のヤツが逝く。
別のヤツが割を食う。
おい。お前も殺ってやるんだ。
別のヤツが割を食う。

お前なしで。お前が死んだら。
俺がうまくやれるもんかと考えているんだろう。
俺にしたすべてのことと、俺を蹴り出したこと。
俺の手で清算してやる。

お前、幸せなのか。お前、満足してるのか。
熱さにどのくらい耐えられるかな。
戸口の外で弾丸が炸裂する。
ビートに合わせて。

別のヤツが割りを食う。
別のヤツが割りを食う。
別のヤツが割りを食う。

別のヤツが割りを食う。
お前、あの手この手で男を痛めつけることができるな。
男を地面に這いつくばらせて。
男を打ちのめすことができる。
男をだますことができる。
男を酷く扱って、男の元を去れる。
男が黙ったらな。
だが俺は覚悟ができています。お前の覚悟はできています。
俺は自分の二本の足で立っている。
戸口の外で弾丸が炸裂する。
ビートは繰り返される。

.....
.

解説

明らかに、男女間の問題がテーマである。男と女の問題は、当事者が勝手に解決してくれればいいので、筆者としては男に肩入れすることも、女を擁護することもない。ただ、こういう男と女の間の問題は、一件一件はミクロな問題なのだが、戦争や内戦のようなマクロな問題の根っこになっている。家庭内の不和がつもりつもって国内情勢の不安定さにつながっていくのだ。平和な国というものがもし存在するならば、それは平和な家庭の集合体でしか有り得ない。

ただ、人間という生き物は、地球上で一番目か二番目に大失敗作の生き物なのだ。地球上で戦争を行う生物は、人間と蟻しかいないといわれている。人間と蟻のどちらかが一番の失敗作でどちらかが二番目の失敗作なのだ。とんでもない失敗作の人間なのだが、こういう歌を聴いたり歌ったりできるというのが人間が人間として生まれてきたことの醍醐味であることは否定できない。

True

次は、80年代にヒットしたSpandau BalletのTrueです。イントロのコーラスが印象的な一曲です。

.....
事実なんだが、恐ろしく妙ちくりんだなあ。
すべては時間通りに収まっている。だが夢の中のことは一度だって順番どおりになったことがない。

つま先は揃っているのに、頭と足が逆さまだ。
これが僕の心の声だ。
これが声だ。

世界行きの切符を買ったんだ。
けどもう戻ってきている。
次の一行を書くことがなんでこんなに大変なんだ。
真実を知って、それを言葉で言ってみたい。

ハンハハンハーンハン
真実はもうたくさんだっていうことだ。
ハンハハンハーンハン
真実はもうたくさんだっていうことだ。

頭の中ではビビッてて、舌の上には錠剤を乗せている。
神経の溶解。これが始まったばかりだ。
マービンを聴き続けている。(一晩中)
これが僕の心の声だ。
これが声だ。

必ず自分の手からすり抜けて
時間の上に時間の粒をまぶしている。
海辺で使うはずの腕で次の一行を書く。
ああ。真実を知り得たい。

ハンハハンハーンハン
真実はもうたくさんだっていうことだ。
ハンハハンハーンハン

真実はもうたくさんだっていうことだ。

解説

kei-ko病の症状がよくわかる傑作です。この40年、確かに無駄なことは多かった。犠牲者も出てしまった。だがそのおかげとしては申し訳ないが、その時代にこのような傑作が生み出されたこともまた事実なのだ。

Arthur's Theme

次はクリストファー・クロスのArthur's Themeです。ピンと来る方はもうピンと来てるかもしれませんが、題名がアーサー（王）のテーマです。期待で胸がドキドキしますね。どんなトンデモナイ曲なのでしょう。

.....

あなたが人生の中で彼女を見つけたならば
あなたの心を一変させてしまうような誰かを見つけたならば
その次は。わかるでしょう。
街を閉じてしまうのです。

朝起きて、彼女がまだそばにいたのなら
街の向こう側に置いてきたのだとしても
自分自身に対して驚くことでしょう
おい。俺は何を見つけたんだ。

月とニューヨークシティの間で立ち往生したとき
これは馬鹿げているけど真実です。
月とニューヨークシティの間で立ち往生したとき
一番の策は。一番の策は。
一番の策は、恋に落ちることです。

アーサー。あなたはそうしたことが嬉しかったのですね。
一生の間あなたは、君主のおもちゃでした。
そして心の奥底では。
ただの、ただの少年でした。
一日ずつ一日ずつ人生を送り
本当にいい時間だったんだなあとわかりました。
アーサーはそんな自分の生き方を笑っています。
皆、彼に居続けてほしいんです。

.....

.

解説

アーサーという人は、月に行こうかニューヨークに行こうか迷っているようです。そのとき、天の声がささやきました。月にしなさいと。一体、天の声の主は誰なのでしょう。また、最後のパラグラフでしゃべっている人は誰なのでしょう。また誰に対してしゃべっているのでしょうか。謎が謎を呼ぶ感じですね。この手の「誰の声なんだよ」と突っ込みたくなる曲のすごい曲があります。それは、The Beatles のLet it be という曲です。

Kill the King

次はRainbowのKill The King です。スピード感のあるハードロックです。

危険だ。危険だ。女王に殺される。

誰かいる。誰かいる。もう命が尽きる。

くそう。危険から脱するんだ。

呪文と魅力が必要だ。

風のように飛ぶんだ。

俺はただの兵士じゃない。行くぜ。スピードアップ。アップだ。

王を殺せ。

打ち倒せ。

王を倒せ。

打ち殺せ。

力だ。力だ。毎日がそれだ。

力だ。延々となぎ倒されていく。

くそう。危険から脱するんだ。

呪文と魅力が必要だ。

風のように飛ぶんだ。

俺はただの兵士じゃない。行くぜ。スピードアップ。アップだ。

王を殺せ。

反逆だ。反逆だ。亡霊がまたうろついてるぞ。

反逆だ。反逆だ。領土は安全だからそのうちに。

くそう。危険から脱するんだ。

呪文と魅力が必要だ。

風のように飛ぶんだ。

俺はただの兵士じゃない。行くぜ。スピードアップ。アップだ。

王を殺せ。

打ち倒せ。

王を殺せ。

王冠を奪い取れ。

王を殺せ。

もうやつの国じゃない。

死ぬまで打て。

もうやつの国じゃない。

死ぬまで打て。

人民は雄たけびを上げる。

王を殺せ。

首を取れ。

倒せ。倒せ。倒せ。倒せ。

殺せ。

殺せ。

オー。

.....

解説

Rainbowは誰と戦っているのでしょうか？素朴な疑問ですが。

Tiger

次はABBAのTigerです。個人的には大好きな曲です。

.....

街はジャングル。気をつけた方がいいわ。

深夜に一人で歩いては絶対にだめ。

それは信じなくても、私には気をつけたほうがいいわ。

あなたの後ろにいる。いつもあなたを捜してる。私は虎。

私を恐れる人は、決して私に近づかない。私は虎。

街は悪夢。身の毛もよだつ夢の中。

誰かさんは永遠に夢を見ている。

隅っこを見てごらん。そして叫んではだめ。

それが私。

あなたの後ろにいる。いつもあなたを捜してる。私は虎。

私を恐れる人は、決して私に近づかない。私は虎。

黄色い眼は、ネオンライトのように光ってる。

黄色い眼。それは夜の街のスポットライト。

あなたの後ろにいる。いつもあなたを捜してる。私は虎。

私を恐れる人は、決して私に近づかない。私は虎。

街は監獄。絶対に逃れられない。

小道に迷い込むなんて永遠にない。

影を見てごらん。私の姿が見えるでしょう。

あなたの後ろにいる。いつもあなたを捜してる。私は虎。

私を恐れる人は、決して私に近づかない。私は虎。

黄色い眼は、ネオンライトのように光ってる。

黄色い眼。それは夜の街のスポットライト。

あなたの後ろにいる。いつもあなたを捜してる。私は虎。

私を恐れる人は、決して私に近づかない。私は虎。

もしあなたに会ったとき、あなたを食べたらどうする気。私は虎。

私を恐れる人は、決して私に近づかない。私は虎。

虎。虎。虎。

.....

解説

女二人に、男一人という三角関係の構図になっている歌はめちゃくちゃ多いのですが、これは違いますね。PVを見てもらうとわかるように、ABBAの4人が車に乗って誰かを捜しているような映像になっています。そもそもの前提を覆そうとしているのか、まったく異なる世界観を楽しもうとしているかのようです。カッコいい歌です。

For Those About To Rock

次は、AC/DCのFor Those About To Rockです。

.....

今夜は踊るぜ。（今夜はスイッチが入ってるぜ）
ギターがミスるまでな。
イエイ。イエイ。オー。

立ち上がって認められろ。
これから受け取るもののためにな。
俺らはディーラーだ。
お前らに必要なものを全部配ってやる。
いい時間に敬礼だ。敬礼だ。
だってロックはいいことなんだからな。
俺らはスターでもない。理由でもない。
今日を生きてるだけのことさ。

踊りたいやつには、敬礼だ。
踊りたいやつには、敬礼だ。

明け方、最前線で踊ってる。
青からボルトが抜け落ちたように
空はギターファイトで赤く燃えてるぜ。
今夜は頭がぐるぐる回ってる。

踊りたいやつには、敬礼だ。
踊りたいやつには、敬礼だ。
踊りたいやつには、敬礼だ。
ああそうだ。
踊りたいやつには、敬礼だ。

オー。敬礼だ。
オー。オー。イエイ。

俺らはギターファイアーを雇うドラムスだ。
準備はできてる。お前を狙ってる。
玉を取り上げ、自分の大砲にこめろ。

2 1 基の礼砲だ。

踊りたいやつは。ファイアー
敬礼だ。

踊りたいやつには。敬礼だ。

踊りたいやつは。ファイアー
敬礼だ。

ファイアー。

敬礼だ。

敬礼だ。

カモーン。フー。

踊りたいやつには。敬礼だ。

撃て撃て。

お前らには。

イエイ

(疲れないし。休まない。敬礼だ。)

敬礼だ。

ファイアー。

.....

解説

個人的には、ギターよりドラムの方が大事だと思うんですが。